

古文書の紹介(3)

新発見の有馬原城絵図

郷土調査担当では、郷土に関する資料を幅広く調査・収集し、貴重な資料の散逸や破損を防止するよう努めています。収集した資料を保存し、活用することで、佐賀県の学術、文化の発展に寄与することを目的として業務を行っています。今回は今年度県内の古文書の調査で発見できた絵図を紹介します。

●有馬原城絵図 糸岐新宮家所蔵

江戸時代 紙本墨画 113.5cm × 79.2cm

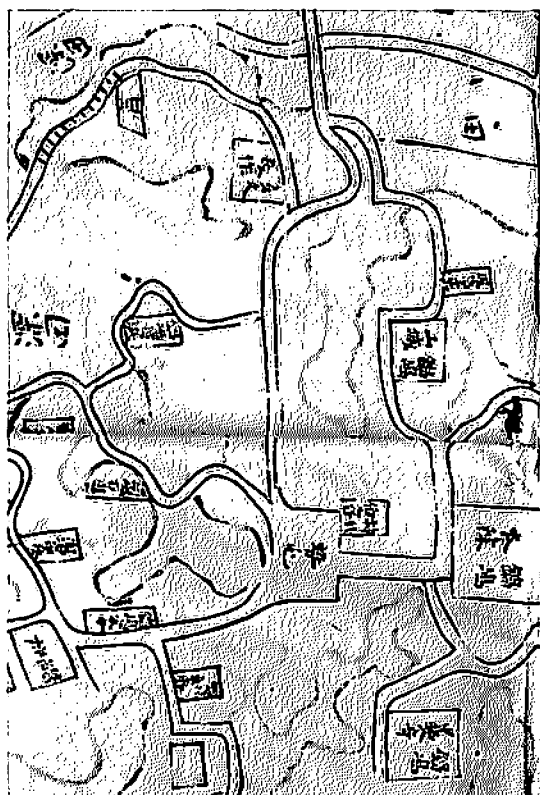
有馬原城絵図は、藤津郡太良町糸岐の旧家に伝えられた資料の一つです。表面には「下高来郡之内有馬原城繪圖」と墨書され、「島原の乱」(1637～1638)のクライマックスである原城の攻防が描かれています。

原城攻防を描いた絵図には、「肥前国原城攻図」(佐賀県立図書館所蔵)、「島原御陣図」(福岡県立伝習館高校所蔵)、「有馬城攻図」(永青文庫所蔵)などが知られていますが、今回発見されたこの絵図にはこれまでの絵図にはない特徴があります。それは、原城攻防に参陣した鍋島勢の布陣が詳細に描かれていることと鍋島勢の手

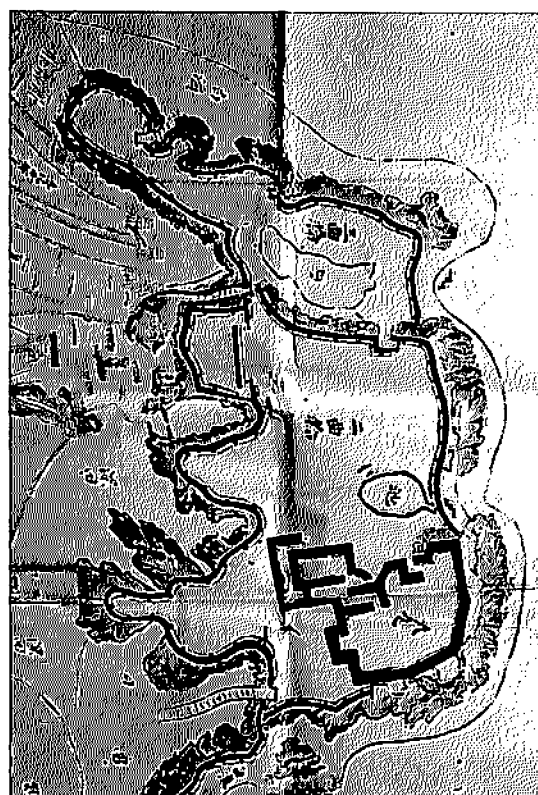
によって描かれているということです。

鍋島勢は、「鍋嶋本陣」を中心に「鍋嶋甲斐守(連池藩)」や「鍋嶋紀伊守(小城藩)」などの支藩、「鍋嶋山城守(白石)」他の親類、「多久美作守(多久)」他の親類同格、「鍋嶋安藝(深堀)」他の家老の布陣が描かれています。これまで知られていた「勝茂公御年譜」の記述を具体的に裏付ける一級の資料といえます。

また、「神代伯耆守(親類：川久保)」は、「鍋嶋本陣」前の勢屯せいたまりに面して陣を構えています。勢屯とは軍勢が控えている所のことですが、勢屯が描かれていることからこの絵図が鍋島勢の手によって描かれたことがわかります。



有馬原城絵図部分①(鍋島勢布陣) (上方南)



有馬原城絵図部分②(原城) (上方北)